

厚木基地をめぐる情勢と市の取り組み

県下でも有数の人口密集地である本市に厚木基地が所在することで、多くの市民が、長年にわたり航空機騒音や事故への不安などに悩まされています。今号では、厚木基地を取り巻く最近の状況と市の主な取り組みについてお知らせします。



空母ロナルド・レーガン(米海軍公式ウェブサイトより(U.S.NAVY photo by Chris Cavagnaro))

2008(同20)年から横須賀に配備されていた米空母ジョージ・ワシントンが、今年5月18日に横須賀を出港。その後継艦としてロナルド・レーガンが10月1日に横須賀に初入港しました。ロナルド・レーガンは、1973(昭和48)年のミッドウェイの配備以来、5隻目の空母となります。ロナルド・レーガンには、ジョージ・ワシントンの艦載機(第5空母航空団)がそのまま引き継がれて搭載されています。ロナルド・レーガンの横須賀入港に先立ち、9月末にはこの艦載機が厚木基地に飛来しています。

空母ロナルド・レーガンが横須賀に初入港

最近の厚木基地をめぐる動き



航空機騒音の主な原因である空母艦載機

厚木基地の現状

厚木基地と空母艦載機

厚木基地周辺住民に深刻な被害をもたらしている航空機騒音の主な原因は、横須賀を事実上の母港とする米空母の艦載機によるものです。艦載機は、空母が横須賀に入港する直前に沖合から厚木基地に飛来し、空母出港後は再び沖合の空母に帰還します。昨年は年間200日ほど空母が横須賀に入港しており、その間、艦載機は厚木基地を拠点として飛行活動を繰り返し、時には深夜におよぶ飛行も見られました。艦載機の飛行は、生活環境の悪化や事故への不安など、さまざまな影響を市民に及ぼします。

市の主な取り組み

航空機騒音をはじめとした厚木基地にかかわる諸問題の解決に向けて、市は県や基地周辺市とも協力しながら、国や米側に対して要請活動(左表参照)などを実施しています。市民・議会・行政の代表者で構成される大和市基地対策協議会(会長:大木哲大和市長)においても、厚木基地の早期返還と基地対策の抜本的改善を求めており、8月には防衛省や外務省、米国大使館などを訪問し、要請活動を実施しました。

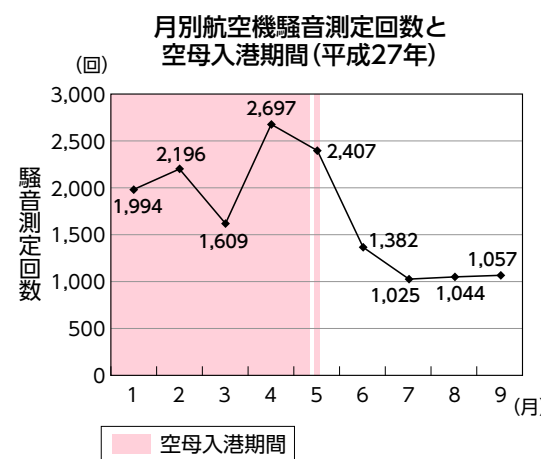
平成27年の主な要請活動(10月10日現在)

とき	内容	要請者
4月28日 30日	空母ジョージ・ワシントン艦載機の着陸訓練について	大和市長
4月30日	空母ジョージ・ワシントン艦載機の着陸訓練について	県と基地周辺9市
6月1日	MV-22オスプレイのハワイ州での事故について	県と基地関係11市
8月5日	海上自衛隊厚木航空基地所属の輸送機による部品紛失について	大和市長
8月20日	「平成28年度基地問題に関する要望」について	神奈川県基地関係市連絡協議会
8月26日	大和市基地対策協議会による要請活動	大和市基地対策協議会

また、海上自衛隊厚木基地所属の航空機による部品紛失などが相次いで発生したことから、8月5日、大和市長は海上自衛隊第四航空群司令に対し、早期に原因を究明するとともに、再発防止策を講じ、航空機の運用にあたっては、安全確保に万全を期するよう強く要請しました。これに対し、8月28日、司令から大和市長に基地対策協議会に対し、事故原因や今後の対策などについて説明がありました。



海上自衛隊員(写真右)から説明を受ける大和市基地対策協議会委員ら(海上自衛隊厚木基地にて)



また、空母の出港前には、地上の滑走路の一部を空母の甲板に見立て離着陸を繰り返すFCLP(Field Carrier Landing Practice)が実施されます。そのうち夜間に実施されるものはNLP(夜間連続離着陸訓練)と呼ばれています。こうした訓練は、1993(平成5)年に小笠原諸島にある硫黄島代替訓練施設が米軍に全面提供されて以来、そのほとんどが硫黄島で実施されています。なお、天候などの理由により厚木基地で離着陸訓練が実施される可能性があるため、市は決して厚木基地で実施することのないよう国や米軍に要請しています。しかしながら、2012(同24)年には、空母の運用上の都合により出港が数日間遅れたことから、市の再三の中止要請にもかかわらず離着

空母艦載機の移駐

在日米軍再編に伴い、2006(同18)年に日米両政府間で合意された「再編実施のための日米ロードマップ」において、空母艦載機計59機が2014(同26)年までに山口県の岩国基地に移駐するとされていました。しかしその後、移駐先の施設整備の全体工程を見直した結果、移駐時期は2017(同29)年頃となる見込みであることが国から示されました。その移駐が2年後に迫る中、今年5月には国から、全体的に移駐の整備は着実に進捗しており、引き続き移駐事業の迅速かつ着実な進捗に最大限努めていくとの説明がありました。市は国や米側に対し、一日でも早い空母艦載機の移駐完了やそれまでの間も市民の負担軽減を図るよう求めています。



住宅地上空を飛行する空母艦載機

陸訓練が厚木基地で実施され、市民に甚大な被害をもたらしました。このように厚木基地周辺の生活環境は、空母の動向や艦載機の飛行に左右されるという特徴を持っています。

空母の横須賀入港に伴い、艦載機が厚木基地に飛来し、市民は甚大な騒音被害を受けています。また、8月以降、沖縄県の普天間基地に配備されているオスプレイが飛来するなど、厚木基地をめぐるさまざまな動きがあります。市では引き続き、空母艦載機の移駐実現による航空機騒音被害の軽減など、厚木基地に起因する諸問題の解決に向け、県や周辺市と連携しながら取り組んでいきます。なお、厚木基地に関わる市の取り組みについては、市のホームページに随時掲載しています。

大和市役所基地対策課基地対策担当
20005310 FAX(290)5316